



安曇野市

第13号

農業委員会だより

表紙の写真

早春賦の碑近くの
わさび田と桜

平成20年の長野県産わさびの生産状況は58ha、104tで全国第2位。安曇野産わさびは長野県全体の90%以上をしめています。

撮影：堀金勇一委員



● 主な内容 ●

- 平成23年度地域農業振興功績者表彰……………2
- とよしな旬彩市のご紹介……………3
- がんばる農業者……………4～5
- 中堀旭農業生産組合の取組み……………6
- 家族経営協定のすすめ・旬の一句・一首…7
- おふくろの味……………8

人・農地プランについて

会長 板花 守夫

平成23年10月に決定した「我が国の食と農林漁業再生のための基本方針」に基づき、力強い農業構造の実現に向けて農地問題を解決するため、市町村では、地域集落ごとに「人・農地プラン」を策定することになりました。

これは、地域集落を中心として話し合いにより大規模農家、集落営農組合、法人等への農地の集積のほか、遊休農地の活用、耕作放棄地対策等の地域の農業問題を解決するための計画を策定するものです。その為には、兼業農家や自給的農家、高齢になっても現役を続ける水田農業、果樹農業のあり方等、具体的な指針が必要です。

今回のプラン策定により、国から青年就農給付金や農地集積協力金等新たな支援措置を受けることが出来ませんが、現場の農業実態に基づいて、地域全体の就農意欲の向上につながる制度であって欲しいと思います。

農業で稼ぐ経営に、田園を維持し守る農業に、安曇野で生きる農業を振興していくことが大切です。

発行日／平成24年7月23日
 編集と発行／安曇野市農業委員会
 安曇野市三郷明盛4810番1 tel0263(77)3111
 農業委員会事務局ホームページアドレス
<http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html>
 申請書、届書のダウンロードができます。

とよしな旬彩市のご紹介

組合長 宮澤 多助

と よしな旬彩市は、豊科高家の県道316号線（旧国道147号線）沿いに平成12年真々部地区（豊科高家）の園芸振興と町関係施設の誘致を目的にあづみ農協と農業委員会の指導を受けて「真々部新鮮市」として地場農産物直売所の運営が開始されました。その後平成18年4月に旧豊科町と長野県の補助事業により「豊科南部地区産地形成促進施設」として整備され、その管理運営を「とよしな新鮮市組合」が担うことになり発足した地場農産物等の販売を中心とした直



と よしな旬彩市は「より多くのお客様様に生産者の顔の見える本物の農産物を味わってもらいたい」との願いから事業を展開してまいりましたが、開設から12年がたち高齢化に伴い組合員の出

組 売所です。科高家地域の組合員を中心に出荷する農産物の販売が九割近くを占め、特に、有機質肥料で栽培した米や昔ながらのはぜ掛け天日干しによる米が好評で販売の多くを占めています。りんごとそのジュース、ジャム、りんご酢などや若いイターン夫妻の作るブドウとこれらの加工品が喜ばれています。地元産のこだわり豚肉と加工品にも根強い人気があります。また、豊科特産の玉ねぎも需要が多くあり栽培を増やすよう努めています。

と 毎月最終の日曜日にイベントを行っています。イベントは季節感や地域の特徴を大切にしています。6月は「玉ねぎ祭」9月なら「新米祭」などと目玉商品の売り出しはもちろん、鎌や包丁などの刃物研ぎサービス、採りたて野菜の漬物や山菜の天ぷらのふるまいなど盛りだくさんです。これらのイベントがお客様とはもとより組合員同士のコミュニティの場となるよう企画しています。



荷農産物が減少していること、若い人達の集まる施設になっていないことなど今後に残された課題が生じています。そんな中であって野菜苗の出荷から始まり多種類の野菜を作り冬野菜まで一年を通して意欲的に生産出荷している女性組合員もおり心強い限りです。山積している課題を考えると悩みは尽きませんが、これらの組合員をお手本に農家や女性の生きがいの場となるような、また、地域振興に役立つ地域づくりの拠点施設として、地域の皆様に貢献できるよう今後も取り組んでまいります。

松塩筑安曇農業委員会協議会 平成23年度 地域農業振興功績者表彰

一志 和恵さん（堀金三田在住）

水稲及びセルリー栽培を中心に行っている農業者である。経営面積は水稲4.1ha（自作地1.1ha、借入地3ha）セルリー40aである。セルリーにおいてはハウス栽培と露地栽培の2通りを行い春、秋、年2回収穫している。昭和61年頃まで桑畑だったこの堀金地域の10軒の農家でセルリー栽培を始めた草分け的存在である。

この度は協議会の御推薦を受け、表彰を戴き、厚く御礼申し上げます。農業者にとって、この上ない光栄と存じ、心の励みとなっております。



昭和50年代、中信平畑地基盤整備事業により、今までの養蚕は姿を消し、立派な畑地ではありましたが、まず大量の石拾いから始まりました。当時農協のご指導により、プリンスメロン、加工トマト等手がけましたが、セルリー栽培に落ち着き、40aのハウスに年間2回作付ております。

畑地に続いて水田も基盤整備事業がなされ、立派な圃場となり、現在借り入れ地も含め約4haの水田耕作をしています。整備された水路にきれいな水が音をたてて流れるのを見る時、安曇野のすばらしさが心にしみる思いと、感謝の気持ちです。

ちでいっぱいです。私は時代が変わっても農業への気持ちは不易でありたいと願っています。



丸山 貢康さん（三郷明盛在住）

水稲栽培を中心に経営を行っている認定農業者である。経営面積は自作地1.7ha、借入地1.5ha、作業受託で水稲12ha、担い手集積で小麦7haとそば3haの栽培を行っている。米ぬかを利用した有機、低農薬栽培で消費者に安全、安心な米を届ける努力をしている。

この度は協議会の御推薦を受け、農業振興功績者表彰を戴き、厚く感謝申し上げます。私は農業高校を卒業して、稲作農業を始めました。最初は父がしていたおすり



等の作業受託をしたり、冬期間はえのき茸栽培をする経営でしたが、農作業機械の発達と共に新機種を導入するようになり、近所の農家の水田を借り受け、担い手農家として水稲、小麦、そばの農業経営をし今の規模となりました。

米作りにおきましては、米ぬか肥料を使い、有機低農薬で消費者に安全な米を届ける努力をしています。今後農業をとりまく情勢は、農業従事者の減少、高齢化や肥料の高止まり等の価格変動により生産コストが上昇する一方、農産物価格に反映されず、農業所得は低下し経営は悪化しています。地域でも高齢化や後継

者不足で耕作できない農地が毎年増えています。担い手農家として農作業はしますが、草刈、水管理はしていただき地域全体が農業から離れていかない様にと望んでいます。

担い手として地域の農業の発展と消費者の要望に沿った安心、安全な農産物の生産に微力ながらいっそう努力していきたいと思っております。



がんばる農業者



私は

平成20年に就農して4年目、駆け出しの新米です。小学校の頃から、家業である農業を継ぐ事を決めていましたが、高校、大学と農業の勉強では視野が狭くなると思い、高校は松本工業高校へ進学、その後、周囲の勧めもあり長野県農業大学校指導学部に進学し、就職はそれまでの勉強とアルバイトの経験を少しでも生かせる様にと、コンビニの弁当や惣菜等を作る企業を選び10年間、機械のメンテナンスも含め沢山の事を経験しました。

私が就農して直ぐに、父から全て経営委員を受け、経営も自分でやる様になり、経営面での課題が見えてきました。そんな時、りんご部会でイタリアへ視察研修の話がありました。当時、りんご新わい化栽培の話が出始めた頃で、正直「りんご

けんいち
林 賢一さん (36)
(堀金小田多井地区)

経営面積	445 a
りんご	265 a
梨	25 a
その他果樹	10 a
田	110 a
野菜他	35 a

ごは日本が一番だろ？なんで外国へ視察に行くんだ？」と思っていましたが、両親が「絶対に見てきた方が良い」と強く勧めるので、半信半疑で参加しました。

2月

の視察でしたので結実状態や品質は分かりませんでした。が、そのスケール、合理性、栽培技術に



感動しました。やっぱり、「井の中の蛙」だなと痛感しました。一緒に視察に行った方々も同様の感想を持ち、現在、「安曇野チロルの会」を発足させ、「新しい化栽培を拓げて安曇野にチロルの景色を！」と皆で頑張っています。



私の

地区でも高齢化が深刻になっています。昨年7月に父が他界し、自分出来る事は少ないですが、「大先輩が作り上げた素晴らしい産地をなくしたくない」という思いで、今後少しずつ規模拡大を図りながら少しでも地域に貢献できるように、出来る事を一つずつやって行きたいと思っています。

がんばる農業者



私は

農業高校を卒業して米作りを始めたのですが、2 ha程度の米作だけでは一家が暮らしていけないので、会社勤めをし、以来35年間、兼業農家として米作りをしながら先祖からの田畑を守ってきました。減反政策で米以外の作物を作らなければならなくなり、トマト、レタス、トウモロコシ等色々試みましたが、米以外の作物の難しさを痛感しましたが、今思うと、満足なものは何も作れなかったような気がします。

57歳で会社を辞めることになり、もう兼業農家の苦勞はしたくないという思いから色々考え、妻の意見を参考にしながら「生花」栽培をしたいと考え取り組むことにしました。ハウスを造っているときは本当に楽しい毎日でした。灌水設備・配管等も自分で考え、2 aのハウスを10棟造りました。

かねとし
塚田 銀稻さん (68)
(穂高有明新屋地区)

経営面積	250 a
水田	200 a
ビニールハウス	2 a 10 棟
生花	主にストック、トルコギキョウ

家族構成
妻、息子と3人暮らし

さあ、栽培を始め、種まき、芽が出るかと心配、芽が出たときの喜び。20日間でハウスに定植、最初の花が咲いたときの喜びは忘れられません。何分にも初めてであり、試行錯誤の連続でしたが、先輩の指導、妻の援護等に助けられ、今日

安曇野

の花は、大分、鳥取、千葉等からのいわゆる「団地物」と比べ、寒暖の差のある高冷地の特性で、茎が硬く、花も硬くて、花もちが良いなど、大変評判が良いようですが、その分、苦勞もあります。茎丈は70 cmを確保しなければならず、寒くても、暑すぎても、丈は伸びません。電灯をつけ夜を短くする取り組みをしています。試験の段階で結果はまだ不明です。連作障害予防、消毒、温度管理、灌水管理等々難しい問題が山積みです。花作り10年になります。安曇野の花が皆さんに喜ばれるのを生き甲斐として、これからもがんばりたいと思います。



家族経営協定のすすめ

家族経営協定って？

家族全員が意欲と生きがいをもって魅力的な農家生活・農業経営に取り組むための家族間でのルール作りです。

なぜ家族経営協定が必要なの？

家族それぞれの役割や働く条件が明確になり、責任ややる気が増して、スムーズな農家経営と経営の向上に役立ちます。
また、家族一人ひとりがお互いに個性と能力を認め合い、かけがえのない対等な仲間として共同経営を充実させていくために必要となります。

どんなきっかけで家族経営協定を結んでいるの？

結婚をきっかけに家族の働き方を見直そうとおもったからね。

農業者年金では、経営の位置づけが明確になると保険料の助成が受けられるからね。

家族皆で目標を持って農業に取り組めば経営にもプラスになると思ったからだよね。

自分が就農したときに給料や休日をきちんと決めたいからね。

家事・育児を夫にも手伝ってもらって女性グループの活動に参加したいから…

家族経営協定を結ぶ手順は？



旬の一句・一首

人影の
絶えし家にも
沈丁花の香り
豊科 望月和榮委員

安曇野の
青田広々
輝けり
穂高有明 丸山三郎

詰め放題
玉葱ネット
伸びきって
三郷温 小松方人委員

暖かな日差しとなれば
セロリはここに
春の泉を展く
堀金鳥川 青柳幸秀

耕地減
体力減
増す支出
明科東川手 沖堅賜委員

協定を結ぶ。
家族で話し合った結果を文書にし、普及センターや農業委員会など関係機関の立会いのもとに協定を結ぶ。

家族経営協定について詳しくは松本農業改良普及センター・農業委員会事務局までお問い合わせください。

中堀旭農業生産組合の取り組み

前組合長 一志 豊



中 堀区は烏川地区の東方に位置し、豊科、三郷に接し農家戸数126戸、耕地面積116haの平坦な水田地帯です。
平成18年中堀の農業をこれからどうするかの問題解決に当たり、農業委員が中心になり、アンケート

調査を行いました。結果「将来農業を委託したい」「農業を縮小したい」との答が半数を超えました。当時「新しい食料・農業・農村の基本計画」が設定され、平成19年より品目横断的農業経営安定対策が導入されることとなり、これを機に集落営農組織を設立すべく協議しましたが、水稲の対応問題が解決できず更に研究することになりました。

そ こで最も明確に取り組むが出来る麦作で組合を設立し、今後に対処することとし、集落の同意を得、平成18年組合員52名、麦作面積21・7haで「中堀旭農業生産組合」が発足しました。「事業要項を充たす規約・組織・経理・作業体制の確立」、「組合員は10aあたり5千円の出資をする（運転資金の確保）」、「作業内容により組合員は作業出役をする」こ

とを基本に毎年順調に組合運営が推移しました。その結果、平成23年には、組合員57名、作付面積26ha、出資金464万円、利益金134万9千円を組合員に配当することが出来ました。その要因は、「組合員が会の方針に協力してくれる」、「組合内で適期作業を行う担い手がいる」、「行政、農協の指導助言があった」、「役員が担当任務に責任を持った」ことが挙げられます。問題点として出てきたのは、「麦作付が個人圃場のため連作障害が発生してきた」、「麦を組合に任せたい感覚がある」、「当初目的の集落営農感覚の盛り上がりがない」、「リーダーをどうするか」です。

今 後の取り組みとしては「集落全員が参加できる営農形態の創出と組織の法人化」、「米、園芸作物の取組みによるブロック



ローテーションの実施」、「機械とオペレーターの確保・育成」、「リーダーと基幹構成員の育成」を目標に平成22年、生産組合での水稲の作付と新体制作りの研究会を立ち上げ、5年後を目標に中堀集落営農確立と法人化を目指しています。

明日の農業を支えている農家のみなさん

農業者年金に加入しませんか



- *終身年金で80歳までの保証つき
- *保険料は全額、社会保険料控除
- *担い手を対象に保険料の国庫補助
- *保険料月額は2万円から自由に選択
- *政策支援加入は保険料の国庫補助

おふくろの味

ミルクくずもち

材料（流し箱一杯分）

- ・片栗粉……………130g
- ・砂糖……………120g
- ・水……………500cc
- ・スキムミルク……………80g
- ・きなこ……………40g
- ・塩……………少々

作り方

- ①鍋に片栗粉、砂糖、スキムミルク、水を入れ、中火にかけて木べらで透きとおるまでかき混ぜながら充分火を通す。
- ②流し箱をぬらし、①が熱いうちに流し入れ、冷やし固める。
- ③冷めてから取り出し、適当な大きさに切つてきな粉と塩を混ぜたものをまぶす。



竹岡たつ子委員

編集後記

昨年の東日本大震災、福島第一原発事故等、全国的に余り明るい出来事が少ない日本に於いて4月22日、新潟県佐渡市で放鳥され巢の中で卵を温める「抱卵」をしていた国の特別天然記念物トキのつがい1組に3羽のヒナが生まれたのを確認したとのニュースが飛び込んできた。国内の野生で確認されたのは1976年以来実に36年振りとのことだ。順調に育てば約40日後に巣立つらしいが厳しい自然環境の中でヒナが外敵に襲われる様子は祈るばかりであるがこれから田んぼに稲が植えられ育つてくると餌場の面積が狭くなるとのこと。ヒナは親鳥の2倍程食べるらしくえさを十分確保出来るかは未知数である。テンやタカなどに襲われる危険性も出てくる。中国でヒナが野生で巣立つ生存率は5割。1年後にはそのうち半数しか残らないとある本で読んだことがある。放鳥トキの親子には試練が待ち受ける、無事に育って大空を飛んで欲しいものだ。

編集委員長 望月和榮

